

島本北洲（島本） 民権運動家。天保四年四月十八日土佐國生れ、明治二十五年十一月二十九日歿（八三—九二）。初名審（伸）次郎、明治三年仲道と改名。安政五年江戸で安井息軒に學ぶ。歸藩後土佐勤王黨に加はり下獄。慶應三年解獄後、松山征討に出陣。維新後、兵部省と經て司法省に入り、明治五年司法大丞、更に大檢事、警保頭を兼務。司法卿江藤新平の下で司法制度の創設、新律綱領の制定等に従事。翌年江藤と共に下野。のち民権運動に携はり、十四年自由黨顧問、二十年には保身條例により退去を命ぜられ、大磯より山梨に移つた。その折の感慨を綴つた『夢路の記』（明治二十四年六月十八日無可亭）は、退去者の記録として尾崎行雄の『退去百録』と……双壁（尾佐竹猛）と評價せられた。二十一年大赦により歸京。麹町に下居し、俳諧に遊ぶ（松岡聽松門）。

他の、大鹽平八郎の事を叙した『青天霹靂』（内題「青天霹靂史」明治二十年八月二十一日今橋蔵刊、博風社・金港堂發兌）がある。

